



歴研ニュース

飯田市

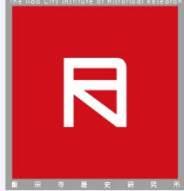
News Letter

No.136

The Iida City Institute of Historical Research

2025年6月1日 発行

飯田市歴史研究所
〒395-0803
長野県飯田市鼎下山538
TEL 0265-53-4670
FAX 0265-21-1173
E-mail iihr@city.iida.nagano.jp



◆◆講座を開催します！◆◆

《地域史講座》
下伊那の満洲移民・青少年義勇軍 ー聞き書きと個人の史料からー

◆日 時：6月28日（土）13：30～16：00

◆会 場：飯田市役所C棟3階会議室（オンライン併用）

◆講 師：原英章（歴史研究所調査研究員）

「少年の日記に見る義勇隊現地訓練所」
向山敦子さん（満洲移民を考える会）

「少女時代の七年間、開拓地での暮らしを聞く」
土井麦穂さん（短歌誌「旅笛」同人）

「開拓団長清水清「青峯遺稿」を読む」
齊藤俊江さん（満洲移民を考える会）

「敗戦と開拓団の崩壊・逃避行」

歴史研究所で刊行した『史料で読む 飯田下伊那の歴史4 満洲移民・青少年義勇軍』について、3回に分けて開催する講座の第2回です。

体験者からの聞き書き、現地で記された日記や漢詩から満洲移民・青少年義勇軍の歴史を読み解きます。

満洲移民・青少年義勇軍



《飯田アカデミア2025 第107講座》
商業は地域をどう変えたのか ー日本小売業の近現代史ー

◆日 時：7月12日（土）13：30～15：00 第1講 百貨店の成立と小売商問題

15：15～16：45 第2講 スーパーの発展と「流通革命」

7月13日（日）9：00～10：30 第3講 コンビニエンス・ストアの日本型革新

10：45～12：15 第4講 商店街の歴史とまちづくり

◆会 場：飯田市公民館（ムトスぷらざ）2階多目的ホール（オンライン併用）

◆講 師：満 園 勇（みつぞの いさむ）さん（北海道大学）

講師より

小売業の歴史的な展開は、私たちの買物のあり方を大きく変えるとともに、私たちが暮らす地域の姿にもさまざまな影響を及ぼしてきました。郊外のロードサイドにチェーン店が立ち並ぶ一方、中心市街地の商店街がシャッター街となって寂れる姿は、その歴史的帰結の一つといえましょう。この講座では、日本小売業の近現代史について、①流通革新というイノベーションの視点と、②地域商業としてのまちづくりの視点の両方に目配りしながら、日本小売業の近現代史について概説します。長野県や飯田の事例にも触れながら、消費や地域のあり方を具体的にイメージできるような内容を目指したいと思います。

◆◆申込み◆◆

講座名	《地域史講座》 下伊那の満洲移民・青少年義勇軍	《飯田アカデミア》 商業は地域をどう変えたのか	下のQRコードから申し込みいただけます。 
参加方法	①会場 ②オンライン ※1つの講義だけでも参加可能		
締切	①6月26日（木） ②6月24日（火）	①7月10日（木） ②6月27日（金）	
資料代	無料	500円（高校生以下無料）	
申込方法	電話、FAX、メール	電話、FAX、メール、申し込みフォーム	
申込内容	氏名、電話番号、参加方法、および②オンライン受講はメールアドレス	氏名、電話番号、参加方法、および②オンライン受講はメールアドレス、郵便番号、住所	

令和7年度飯田市歴史研究所研究計画

歴史研究所の調査研究活動は、複数の研究員が研究組織を構成して諸課題に取り組む基礎共同研究と、各研究員が個々の課題に取り組む基礎研究によって進められています。令和7年度は、以下の体制で調査研究を行います。

1. 基礎共同研究（名前は代表者）

基盤調査：日常的・永続的な調査・研究事業		単位地域研究 ：市域の自治区域（旧町村）を対象に取り組む総合的な調査・研究	
史料所在状況踏査	羽田 真也	飯田・上飯田	多和田 雅保
史料現状記録調査	羽田 真也	座光寺	羽田 真也
オーラルヒストリー調査	伊藤 悠	川路	羽田 真也
歴史的建造物調査	岩田 会津	三穂	前澤 健
歴史的公文書調査	伊藤 悠	松尾	伊藤 悠
		南信濃	岩田 会津
課題研究：数年間をかけて特定のテーマに取り組む研究			
地方小都市の近代化過程における学校を中核とした文化的ネットワーク構築			多和田 真理子
山里の分節的把握―阿智村清内路を素材として			坂本 広徳

2. 基礎研究

所長	伊坪 達郎	飯田・下伊那近代の主な歩みをまとめる
顧問研究員	加藤 陽子	森本州平日記を読む
	田島 公	国指定史跡・恒川官衙遺跡の保存・活用を促進するための地方官衙（「評衙」・「郡衙」）と古代地方寺院（「評寺」・「郡寺」、「定額寺」）の研究
	多和田 雅保	近世・近代の飯田町を中心とするネットワークの研究
	多和田 真理子	小学校の設置運営と地域の関わり―一日誌類の分析を中心に―
	安岡 健一	「農村メディア」を通じたパブリック・ヒストリー実践
	吉田ゆり子	山里に生きた人々の意識―身分と職分に注目して―
研究員	伊藤 悠	近現代の飯田下伊那における地域経済と資源
	岩田 会津	明治期の地図・地籍史料に基づく地域景観の復元
	羽田 真也	・近世信州伊那地域における村社会の構造―座光寺村を素材として― ・近世大平の社会構造と大平街道をめぐる流通
特任研究員	竹村 雄次	幕末明治大正期、下伊那の文化的活動とその展開
	前澤 健	・樽木役の負担に関わる諸問題3 ・明治初年の天竜川通船
調査研究員	太田 仙一	飯田・下伊那の経済・経営史的研究
	竹ノ内 雅人	飯田下伊那地域の寺社と地域社会に関する基礎的研究
	田中 雅孝	養蚕地帯・下伊那の社会構造と主体
	千葉 拓真	近世の飯田・下伊那における領主間ネットワークと地域社会の総合的研究
	原 英章	飯田下伊那の戦争に関わる遺跡と日記の調査（平岡ダム・個人の日記）
	福村 任生	伊那街道における歴史的景観の持続再生に向けた総合的研究
	本島 和人	・満洲移民送出及び引揚げに至る下伊那の社会と経済 ・満洲移民参加者の書簡の翻刻と解説
市民研究員	栗谷 真寿美	青年会、青年運動の研究
	坂本 広徳	近世清内路の社会構造
	壬生 雅穂	ミチューリン会で菊池幸子が作り出した「場」

学びの季節、飯田歴史大学の頃

栗谷真寿美（歴史研究所市民研究員）

飯田市歴史研究所開設の20年程前のことです。当地には飯田歴史大学がありました！

飯田歴史大学は、1982年、学びを求める地域の人々が始めた講座です。飯田市立中央図書館を本拠地に、当地出身の明治大学助教授、後藤総一郎氏が主宰講師を務め、運営委員会を中心とした自主運営で月一度の講義が行われました。「飯田学事始」と題した第一回目より、地域史、思想史、自分史などの本格的な講義に、勤め人、主婦、学生、高齢者と幅広い多くの人々が参加しました。講義は毎回録音して文字に起こし、まとめたものが会報に掲載され、それをもとにさらに学びを深めていきました。

私の所属する「伊那近代思想史研究会」（伊那民俗学研究所の部会）は、飯田歴史大学の活動を引き継いだものです。現在の活動場所である柳田國男館には、歴史大学の講義を録音したカセットテープが大量に保存されています。

飯田歴史大学は、当時各地で始まった「常民大学運動」の一つに位置づけられますが、飯田にはそれ以前に、大正期青年たちによる「伊那自由大学」がありました。自由大学もまた、青年たちが講師を招いての自主講座でした。さらに注目すべきは、歴史大学の掲げる「身銭主義」です。歴史大学の会費は年間1万円でした。苦しい中からも身銭を切って学ぶということ、それは自動的、一方的に与えられる学びではない、本気の学びへの決意なのです。この精神こそが、歴史大学、自由大学双方に通底するものだと思います。

飯田歴史大学が開講した1982年には、飯田市立中央図書館で、「伊那自由大学60周年記念の集い」が開かれています。その後、かつての自由大学青年たちの中にも、飯田歴史大学に参加する人たちが出てきました。60年の時を経て現れた往年の自由大学青年たちが、次世代の人々と共に飯田歴史大学で学ぶ姿を想像すると、感慨を覚えます。

飯田歴史大学については、『地域を拓く学び—飯田歴史大学10年の学び』が刊行されていますので、飯田市立中央図書館などでご参照ください。

第22回飯田市地域史研究集会を開催します

◆日時：9月6日（土）・7日（日）

◆会場：飯田市役所C棟3階会議室

9月6日（土）

午前 自由論題報告

青島重行さん（歴史研究所満洲移民研究ゼミ）

町田良さん（京都大学大学院生）

午後 基調講演

多和田雅保（歴史研究所顧問研究員／横浜国立大学）

9月7日（日）

シンポジウム（テーマ：農業と地域史研究）

趣旨説明 岩田会津（歴史研究所研究員）

報告① 福嶋紀子さん（松本大学／中央大学大学院非常勤講師）

報告② 竹村雄次（歴史研究所特任研究員）

報告③ 寺田一雄さん（柳田國男記念伊那民俗学研究所）

報告④ 小川秀和さん（長野県南信農業試験場）

討論司会 安岡健一（歴史研究所顧問研究員／大阪大学）

飯田下伊那の伝統的な生活基盤である農業の営みを、文献史・建築史・民俗学など多角的な視点から取りあげます。農業を通して地域の歴史や社会の姿を浮き彫りにすることを目指します。

《定例研究会》

下伊那型サロンと宗教・文化ネットワーク（仮）

◇報告者：竹村雄次（歴史研究所特任研究員）

◇開催日：7月5日（土） 14：00～16：00

◇会場：歴史研究所 研修室

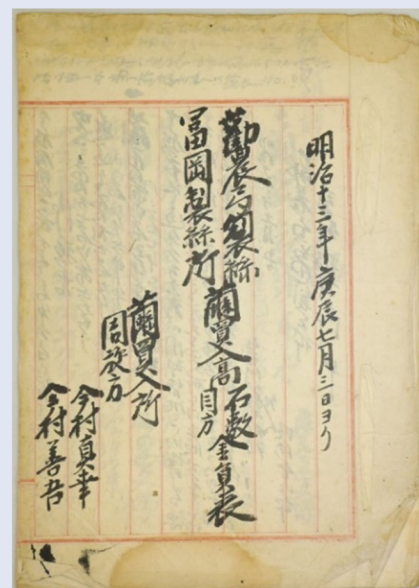
※聴講をご希望の方はお電話ください。

史料紹介 富岡製糸場に出荷された飯田下伊那の繭

伊藤 悠（歴史研究所研究員）

日本初の本格的な器械製糸場である富岡製糸場（群馬県）は、近代日本の養蚕・製糸業の発展を支えた産業遺産群の一つとして、2014年に世界遺産に登録されました。この官営富岡製糸場へ、明治前期に飯田下伊那から原料繭を送っていたことを示す史料2点が、座光寺の古瀬今村家文書に残されていました。

その一つが、①「勸農局製糸富岡製糸所 繭買入高石数目方金員表」（明治13=1880年）です。作成者は座光寺の「繭買入所周旋方」今村真幸・今村善吾です。①によると、阿島（現喬木村）の長谷川範七が政府の勸農局製糸方への用達を勤め、その代理人として善吾（古瀬今村家）らが実際の繭の調達を担ったようです。長谷川は、明治6年に飯田下伊那で初の器械製糸場を設立し、8年には富岡製糸場に倣って工場を改造したことで知られる人物です。繭の調達は座光寺買入所（93石）と飯田買入所（142石）に分かれ、このうち善吾・真幸が担当したと思われる座光寺買入所については、①に買入元農家の氏名・購入量・代金などを記載した一覧表が付されています。この表を集計すると、最多の座光寺が繭1貫当代金も平均3.8円と最も高くバラツキも少なく、市田（現高森町）や阿島がそれに続きます。



もう一つが、作成者や年代は不明ですが、同じく座光寺で記録されたとみられる②「勸農局製糸方富岡繭買入日記」です。②には、長谷川から購入資金を受け取った6月29日に始まり、飯田や飯沼での繭の購入、殺蛹と乾燥、選繭、飯田から手配した馬による出荷という一連の過程を経て、片付けを終えた8月22日に至るまでの経緯が記されています。日記には座光寺の主だった人々など30人以上の名前が見え、繭の集荷作業に郷蔵や学校が使用されたことから、村の重要な仕事として扱われた様子がうかがえます。7月初頭には「ホイロ式」や「蒸殺箱」を利用した「蒸燥」（殺蛹）が行われていますが、「蝶出ルニ付蒸燥殺仕直シ」と試行錯誤の跡もあり、器械製糸に供給する大量の繭を遠距離輸送するための産繭処理の方法も垣間見えます。①②は、飯田下伊那における明治前期までの養蚕業の発展を裏付けるとともに、やがて勃興してくる器械製糸業の前提条件をなす諸技術の発達過程をも示す史料と言えるでしょう。

史料／「古瀬今村家文書」（B-6-10-2、B-6-10-3）

参考文献／平沢清人『下伊那蚕糸業発達史』（甲陽書房、1952年）

受講生
募集中!!

歴研ゼミ&ワークショップ6月・7月の予定

会場：歴史研究所 研修室

近世史ゼミ

「飯田御用覚書」を読む

担当：羽田真也(研究員)
6月11日・25日／7月9日・23日
(第2・第4水曜日) 18:30～20:30

建築史ゼミ

身近な空間の歴史を調べてみる

担当：岩田会津(研究員)
6月20日／7月18日
(第3金曜日) 18:30～20:30

地域史ゼミ

大正期LYL事件の
刑事記録を読む

担当：伊藤悠(研究員)
6月12日／7月10日
(第2木曜日) 13:30～15:30

思想史ワークショップ

清水幾太郎『天皇論』他の
輪読と論議

市民の皆さんが自主的に学び合う場
6月4日・18日／7月2日・16日
(第1・第3水曜日) 19:00～21:00

満洲移民研究ゼミ

文書・記憶・個人の記録から考える

担当：本島和人(調査研究員)
第161回6月7日／第162回7月12日
(第1土曜日) 10:00～11:40
※7月は第2土曜日に開催します

近現代史ゼミ

昭和11年の胡桃澤盛日記を読む

担当：田中雅孝(調査研究員)
7月26日
(第4土曜日) 10:00～11:40
※6月28日は休講となります

※ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL：0265-53-4670

開所時間：9:00～17:00 休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日
メール配信をご希望の方は、E-mail：iihr@city.iida.nagano.jpまで